

KEYAK!

12月号

落ち葉の絶えないこの時期、子どもたちはそんな落ち葉の中からけやきの木のタネを探し出し集めたりしています。2mm くらいの粒なので、見せてくれる子には「こんなちっちゃいもの見つけられてよっほど目がいいんだねえ。」と褒めていたのですが、どうやらそれだけではないようです。粒を見つけて拾っている子どももちろんいますが、経験者になると枝にまとまった葉がついているやつをさっと拾い、そこにくっついているタネを集めるのです。目からウロコというか目のつけどころが違うというか、その要領の良さやコツみたいなものに感心します。まだまだ子どもたちに教えてもらうことのほうが多いです。

先日のこどもかいの参観ならびにご協力ありがとうございました。子どもたちがお父さんお母さんが見に来てくれる嬉しさを垣間見ることもできましたし、彼らは本当に前向きでよくやっているなあという印象です。自分が子どもだったら、あんなふうにできるかな・・・多分違ったと思います。今の自分をなんとなく確立してきたのはもっとずっと後のような気がします。私は子どもたちのことを「いいとこメガネ」で見ているので、彼らに関することは大体肯定的です。ですが、取り組みや園生活での過程をずっと追えている立場から、実際は子どもたちがこども社会において感じているさまざまな思い、を見て取れる場面も多々あるのです。すねてる所、おこってる所、不得手な所、戸惑ってる所、消極的な所、比較する所、興味あることないこと、あってると思ってても指摘されたり、できると思ってたことがうまくいかなかったり、周りを見て違和感を感じたり・・・ひとりひとりそれぞれが自分の感覚や感情にズレや戸惑いを覚える。そんなふうに感じる場面は沢山あります。

いろんな人がいて、いろんな考えがあって、自分にも意思があって・・・まだ幼い彼らにとって整理できないモヤモヤしたものだと思いますが、どれも未来に必要なことばかりです。子どもたちもけやきのタネと一緒に。芽が出て膨らんで・・・見守って応援して・・・花が咲いたらジャンケンぽん！だ！

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- ・友達とあそびのイメージを広げ、言葉を交わしながら遊ぶ
- ・劇ごっこなど、ここが面白いと感じたところを思い切り楽しんでみる
- ・異年齢でのかかわりをもち、親しむ
（中長の劇をみる・おもちつき・誕生会・クリスマスなど）

4歳

- ・おもしろそう、やれそうと思えることに、自分からかかわって繰り返し取り組む
- ・自分の力を発揮するうれしさを感じる
- ・クラス全体でまとまるとすると楽しい遊びや活動を経験し、実感する

5歳

- ・ドッジボールや鬼ごっこなど、ゲームやルールのある遊びを大勢の友達と一緒に楽しむ
- ・互いにアイデア・イメージを出し合って、話し合ってクラス共通のものにする
- ・全体を見渡して、必要に応じて援助しあうことができる